

経営比較分析表

岐阜県 池田町

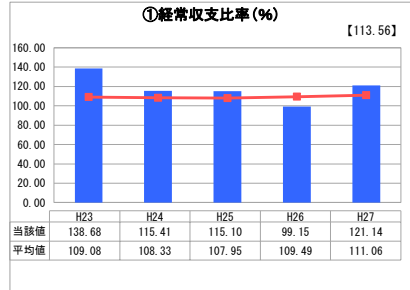
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	69.14	49.64	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
24,572	38.80	633.30
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
11,941	9.92	1,203.73

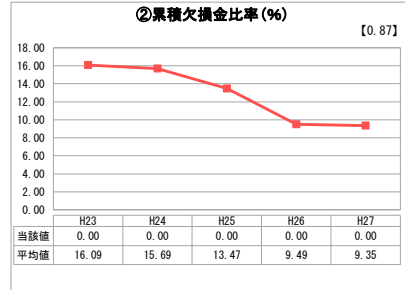
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

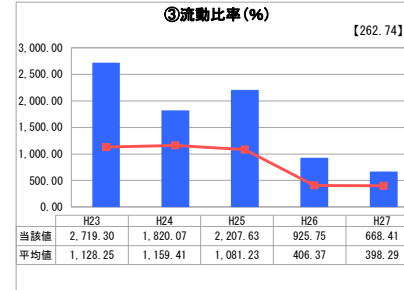
1. 経営の健全性・効率性



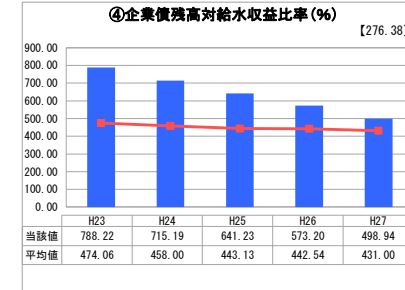
「経常損益」



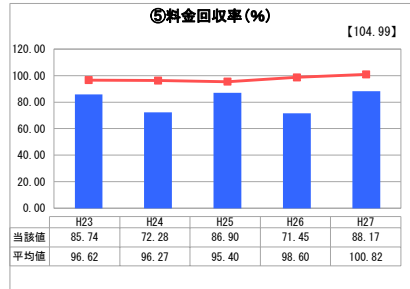
「累積欠損」



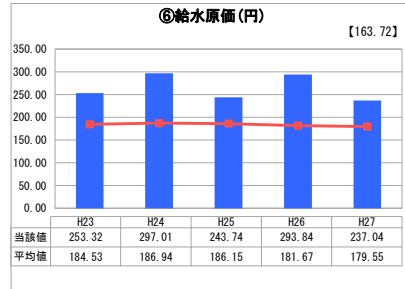
「支払能力」



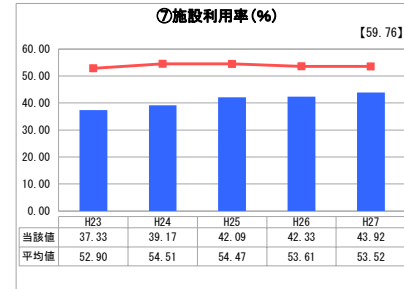
「債務残高」



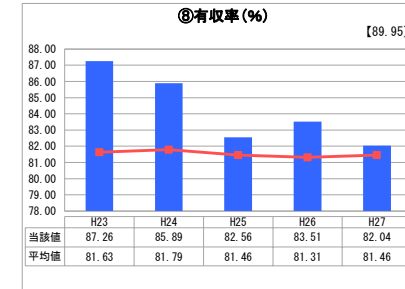
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

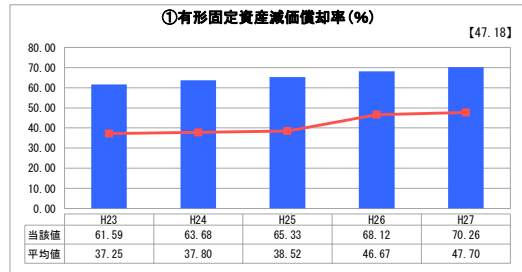


「施設の効率性」

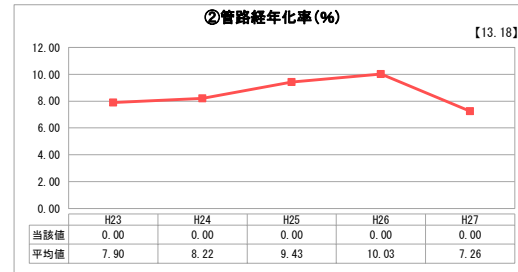


「供給した配水量の効率性」

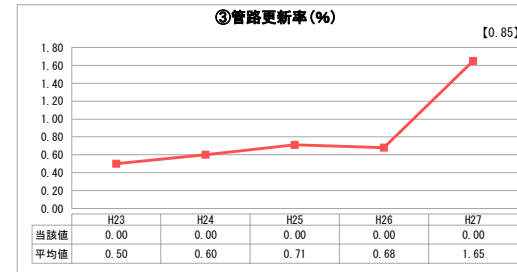
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は概ね良好である。しかしながら、料金回収率は100%を下回っており、企業債残高が高額で、高料金対策繰入金により費用を賄っている状況である。平成35年以降は、企業債の償還が完了し、給水原価が低くなる予定である。

2. 老朽化の状況について

供用開始が平成6年であり、保有する資産は、そのほとんどが創設当初のものであるため、10~20年後には更新需要が集中することが予想される。平成27年度に、池田町水道事業ビジョンを策定し、健全で安定した事業運営を目指している。中長期的な水道施設の更新と資金確保を実現させるための、アセットマネジメント手法による更新需要及び財政収支見通しの検討を行う。

全体総括

有収率が類似団体平均を上回っているものの、85%を下回る数値となっていることに加え、施設利用率が類似団体平均を下回っているなど、施設の稼働状況が収益に反映されていない現状がある。また、安定的な水供給に向けて、耐震化も重要な課題である。経営戦略策定により、計画的かつ合理的な経営を行い、持続可能な経営体制を目指す。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。